



# ブレード サーバの管理

---

この章の内容は、次のとおりです。

- [ブレード サーバ管理, 2 ページ](#)
- [ブレード サーバの削除および解放に関するガイドライン, 3 ページ](#)
- [予期しないサーバ電力変更を回避するための推奨事項, 4 ページ](#)
- [ブレード サーバのブート, 5 ページ](#)
- [ブレード サーバのシャットダウン, 6 ページ](#)
- [ブレード サーバの電源再投入, 7 ページ](#)
- [ブレード サーバのハードリセットの実行, 8 ページ](#)
- [ブレード サーバの認識, 9 ページ](#)
- [シャーシからのブレード サーバの削除, 9 ページ](#)
- [ブレード サーバの解放, 10 ページ](#)
- [ブレード サーバのロケータ LED の電源投入, 10 ページ](#)
- [ブレード サーバのロケータ LED の電源切断, 11 ページ](#)
- [ブレード サーバの CMOS のリセット, 12 ページ](#)
- [ブレード サーバの CIMC のリセット, 12 ページ](#)
- [ブレード サーバの TPM のクリア, 13 ページ](#)
- [ブレード サーバの破損した BIOS の復旧, 14 ページ](#)
- [ブレード サーバからの NMI の発行, 15 ページ](#)
- [ヘルス LED アラーム, 15 ページ](#)
- [ヘルス LED ステータスの表示, 16 ページ](#)

# ブレードサーバ管理

Cisco UCS Manager 経由で Cisco UCS ドメイン 内のすべてのブレードサーバを管理およびモニタできます。電源状態の変更など一部のブレードサーバ管理タスクは、サーバおよびサービスプロファイルから実行できます。

残りの管理タスクは、サーバ上でだけ実行できます。

シャーシ内のブレードサーバスロットが空の場合、そのスロットに関する情報、エラー、および障害が Cisco UCS Manager から提供されます。サーバ mismatch エラーを解決し、そのスロット内のブレードサーバを Cisco UCS Manager で再検出するために、スロットを再認識させることもできます。

## Cisco UCS B460 M4 ブレードサーバ管理

Cisco UCS B460 M4 ブレードサーバは、Cisco UCS 拡張コネクタで接続された 2 台の Cisco UCS B260 最大幅ブレードサーバから構成されています。各ブレードサーバはノードと呼ばれ、マスターノードまたはスレーブノードになることができます。

各 Cisco UCS B460 M4 ブレードサーバには 2 つの異なるノードが存在するため、以下について注意する必要があります。

- マスターノードは常に、最も大きな番号が付いたスロットのノードです。
- Cisco UCS B460 ブレードサーバが Cisco UCS Manager で参照される際は、マスターのスロット番号が参照されます。
- Cisco UCS B460 M4 ブレードサーバから Cisco UCS 拡張コネクタを取り外すと、Cisco UCS Manager GUI の [物理ディスプレイ (Physical Display)] 領域には、両方のマスターノードスロットと両方のスレーブノードスロットで [解決が必要 (Needs Resolution)] が表示されます。
- ヘルス LED には、マスターノードとスレーブノードの個々の状態、および両方のノードを組み合わせた状態が表示されます。複合ヘルス LED には常に、最も状態が悪いノードのステータスが表示されます。ヘルス LED アラームは個別に表示されます。
- Cisco UCS Manager GUI では、マスターまたはスレーブノードのロケータ LED のオン/オフを切り替えることができます。Cisco UCS Manager CLI では、ロケータ LED のオン/オフを個々に切り替えるか、両方のロケータ LED のオン/オフを同時に切り替えることができます。
- Cisco UCS B460 M4 ブレードサーバに対する電力制限は、サーバレベルで適用されます。各ノードの制限値は合計値の半分です。
- ファームウェアを更新すると、マスターとスレーブノードの両方が同時に更新されます。個々のノードでファームウェアを更新することはできません。
- ローカルディスクの設定は、マスターノードでのみサポートされます。
- Cisco UCS B460 ブレードサーバは、マスターまたはスレーブノードによって生成された SEL ログを区別しません。ログは同じページに表示され、スロット番号で区別されます。

- Cisco UCS Manager GUI では、[ストレージ (Storage)] タブの [ローカルディスクの設定ポリシー (Local Disk Configuration Policy)] と [実際のディスク設定 (Actual Disk Configurations)] 領域に、Cisco UCS B460 ブレードサーバのマスター ノードのデータだけが表示されます。スレーブ ノード用のフィールドは表示されません。

## Cisco UCS B460 M4 ブレードサーバへのアップグレード

Cisco UCS B260 M4 ブレードサーバがある場合、アップグレードキットを購入して Cisco UCS B460 M4 ブレードサーバに変換することができます。詳細については、該当の『*Cisco UCS Hardware Installation Guide*』を参照してください。

### はじめる前に

2 台の Cisco UCS B260 M4 ブレードサーバと Cisco UCS スケーラビリティ コネクタが必要です。

### 手順

- 
- ステップ 1** 既存の Cisco UCS B260 M4 ブレードサーバがサービス プロファイルに関連付けられていないことを確認します。
  - ステップ 2** 1 台目のブレードサーバの上か下のシャーシに 2 台目の Cisco UCS B260 M4 ブレードサーバを挿入します。  
(注) 2 台目のブレードサーバに Cisco UCS スケーラビリティ ターミネータが付いていない場合は、1 台目のブレードサーバのターミネータを使用します。
  - ステップ 3** 両方の Cisco UCS B260 M4 ブレードサーバを停止させます。
  - ステップ 4** ファームウェアを同期します。  
自動的に新しいサーバを更新するには、Cisco UCS Manager の [ファームウェア自動同期サーバ (Firmware Auto Sync Server)] ポリシーを使用します。詳細については、該当する『*Cisco UCS B-Series Firmware Management Guide*』を参照してください。
  - ステップ 5** Cisco UCS スケーラビリティ ターミネータを Cisco UCS スケーラビリティ コネクタに置き換えます。  
スロットのプレゼンスはミスマッチに変わりますが、検出はトリガーされません。
  - ステップ 6** 新しい Cisco UCS B460 M4 ブレードサーバを再認識します。
- 

## ブレードサーバの削除および解放に関するガイドライン

Cisco UCS Manager を使用してブレードサーバを削除するか解放するかを決定する場合は、次のガイドラインを考慮してください。

### ブレードサーバの解放

解放は、ブレードサーバが物理的に存在し接続しているときに、一時的に設定から削除する場合に実行します。解放されたブレードサーバは最終的に再稼働することが予測されるので、サーバの情報部分は、将来の使用に備え、Cisco UCS Manager によって保持されます。

### ブレードサーバの取り外し

削除は、ブレードサーバをシャーシから接続解除して、Cisco UCS Manager から物理的に削除する（取り外す）場合に実行します。ブレードサーバが物理的に存在し、シャーシに接続しているときは、Cisco UCS Manager から削除できません。ブレードサーバの物理的な削除が完了すると、そのブレードサーバの設定を Cisco UCS Manager で削除できます。

削除時、そのブレードサーバへのアクティブリンクは無効化され、すべてのエントリがデータベースから削除されます。サーバは検出時に割り当てられたすべてのサーバプールから自動的に削除されます。



(注) 自動的に削除されるのは、ディスカバリ中に自動的にサーバプールへ追加されたサーバだけです。サーバプールに手動で追加したサーバは手動で削除する必要があります。

削除したブレードサーバを再び設定に追加するには、それを再び接続して検出する必要があります。Cisco UCS Manager に再導入したサーバは、新しいサーバとして処理され、詳細なディスカバリプロセスが実施されます。このため、Cisco UCS Manager によって、以前とは異なる新しい ID がサーバに割り当てられることがあります。

## 予期しないサーバ電力変更を回避するための推奨事項

サーバがサービスプロファイルに関連付けられていない場合は、サーバの物理的な[電源 (Power) ] または[リセット (Reset) ] ボタンなど、サーバの電源状態を変更するために使用可能な手段をすべて使用できます。

サーバがサービスプロファイルに関連付けられているか、サービスプロファイルに割り当てられている場合は、サーバの電源状態の変更は次の方法でのみ行う必要があります。

- Cisco UCS Manager GUI で、サーバまたはサーバに関連付けられたサービスプロファイルの [全般 (General) ] タブに移動し、[アクション (Actions) ] 領域で [ブートサーバ (Boot Server) ] または [シャットダウンサーバ (Shutdown Server) ] を選択します。
- Cisco UCS Manager CLI で、サーバまたはサーバに関連付けられたサービスプロファイルを調べ、**power up** または **power down** コマンドを使用します。

**重要**

電源がオフになっている関連サーバには、次のオプションのいずれも使用しないでください。

- GUI の [リセット (Reset) ]
- **cycle cycle-immediate** または CLI の **reset hard-reset-immediate**
- サーバの物理的な [電源 (Power) ] または [リセット (Reset) ] ボタン

現在電源がオフになっているサーバに対して、リセットまたはサイクルを実施するか、サーバの物理的な電源ボタンを使用すると、サーバの実際の電力状態がサービス プロファイルで必要とされる電源状態の設定と同期しなくなる可能性があります。サーバと Cisco UCS Manager 間の通信が中断したり、サービス プロファイルの設定が変更されると、Cisco UCS Manager によって、必要とされる電源の状態がサービス プロファイルからサーバに適用される場合があり、この結果予期しない電力変化が発生する可能性があります。

電源の同期に関する問題は、次に示すように予期しないサーバの再起動につながる可能性があります。

サービス プロファイルで必要とされる電源状態	現在のサーバの電源状態	通信が中断された後のサーバの電源状態
アップ	電源オフ	電源オン
ダウン	電源オン	電源オン  (注) 実行中のサーバは、サービス プロファイルに必要とされる電源状態に関係なくシャットダウンされません。

## ブレードサーバのブート

### はじめる前に

ブレードサーバまたはサーバプールにサービス プロファイルを関連付けます。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>scope org</b> <i>org-name</i>	指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、 <i>org-name</i> に / を入力します。
ステップ 2	UCS-A /org # <b>scope service-profile</b> <i>profile-name</i>	指定したサービス プロファイルで組織サービス プロファイル モードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /org/service-profile # <b>power up</b>	サービスプロファイルに関連付けられたブレードサーバをブートします。
ステップ 4	UCS-A /org/service-profile # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステム設定にコミットします。

次の例は、ServProf34 という名前のサービス プロファイルに関連付けられたブレードサーバをブートし、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A /org* # scope service-profile ServProf34
UCS-A /org/service-profile* # power up
UCS-A /org/service-profile* # commit-buffer
UCS-A /org/service-profile #
```

## ブレードサーバのシャットダウン

この手順を使用して、インストールされているオペレーティングシステムによりサーバをシャットダウンする場合、Cisco UCS Manager により、この OS のグレースフル シャットダウン シーケンスがトリガーされます。

### はじめる前に

ブレードサーバまたはサーバプールにサービス プロファイルに関連付けます。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>scope org</b> <i>org-name</i>	指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、 <i>org-name</i> に / と入力します。
ステップ 2	UCS-A /org # <b>scope service-profile</b> <i>profile-name</i>	指定したサービス プロファイルで組織サービス プロファイル モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	UCS-A /org/service-profile # <b>power down</b>	サービスプロファイルに関連付けられたブレードサーバをシャットダウンします。
ステップ 4	UCS-A /org/service-profile # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステム設定にコミットします。

次に、ServProf34 という名前のサービスプロファイルに関連付けられたブレードサーバをシャットダウンし、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A /org # scope service-profile ServProf34
UCS-A /org/service-profile # power down
UCS-A /org/service-profile* # commit-buffer
UCS-A /org/service-profile #
```

## ブレードサーバの電源再投入

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>scope server chassis-num/ server-num</b>	指定したブレードサーバでシャーシサーバモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /chassis/server # <b>cycle {cycle-immediate   cycle-wait}</b>	ブレードサーバの電源を再投入します。 ブレードサーバの電源再投入をただちに開始するには、 <b>cycle-immediate</b> キーワードを使用します。保留中のすべての管理操作が完了した後に電源再投入が開始されるようスケジュールするには、 <b>cycle-wait</b> キーワードを使用します。
ステップ 3	UCS-A# <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステム設定にコミットします。

次に、シャーシ 2 のブレードサーバ 4 の電源をただちに再投入し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope server 2/4
UCS-A /chassis/server # cycle cycle-immediate
UCS-A /chassis/server* # commit-buffer
UCS-A /chassis/server #
```

## ブレードサーバのハードリセットの実行

サーバをリセットすると、Cisco UCS Manager により、リセットライン上にパルスが送信されます。オペレーティングシステムのグレースフルシャットダウンを選択することができます。オペレーティングシステムでグレースフルシャットダウンがサポートされていない場合、サーバ電源の再投入が行われます。サーバのリセット前にすべての管理操作を完了させるオプションを Cisco UCS Manager に適用した場合、それらの管理操作がサーバのリセット前に完了するかどうかは保証されていません。



- (注) 電源切断状態からサーバをブートする場合は、[リセット (Reset)] を使用しないでください。このプロセスで電源投入を続行すると、サーバの望ましい電源状態が実際の電源状態と同期しなくなり、サーバが後で予期せずシャットダウンすることがあります。選択したサーバを電源切断状態から安全にリブートするには、[キャンセル (Cancel)] をクリックし、[サーバの起動 (Boot Server)] アクションを選択します。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>scope server chassis-num/ server-num</b>	指定サーバのシャードサーバモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /chassis/server # <b>reset {hard-reset-immediate   hard-reset-wait}</b>	ブレードサーバのハードリセットを実行します。サーバのハードリセットをただちに開始するには、 <b>hard-reset-immediate</b> キーワードを使用します。保留中のすべての管理操作が完了した後にハードリセットが開始されるようスケジュールするには、 <b>hard-reset-wait</b> キーワードを使用します。
ステップ 3	UCS-A /server # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステム設定にコミットします。

次に、シャード 2 のブレードサーバ 4 のハードリセットをただちに実行し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope server 2/4
UCS-A /chassis/server # reset hard-reset-immediate
UCS-A /chassis/server* # commit-buffer
UCS-A /chassis/server #
```

## ブレードサーバの認識

サーバ、およびそのサーバのエンドポイントすべてを再検出させるには、次の手順を実行します。たとえば、サーバがディスクバリ状態など、予期していなかった状態から抜け出せなくなっている場合に、この手順を使用します。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>acknowledge server</b> <i>chassis-num/ server-num</i>	指定されたブレードサーバを認識します。
ステップ 2	UCS-A# <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステム設定にコミットします。

次の例では、シャーシ 2 のサーバ 4 を認識し、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# acknowledge server 2/4
UCS-A* # commit-buffer
UCS-A #
```

## シャーシからのブレードサーバの削除

### はじめる前に

次の手順を実行する前に、サーバをシャーシから物理的に取り外します。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>remove server</b> <i>chassis-num/</i> <i>server-num</i>	指定したブレードサーバを削除します。
ステップ 2	UCS-A# <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステム設定にコミットします。

次に、シャーシ 2 のブレードサーバ 4 を削除し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# remove server 2/4
UCS-A* # commit-buffer
UCS-A #
```

### 次の作業

ブレードサーバを物理的に再設置する場合は、スロットを再認識して、Cisco UCS Manager にこのサーバを再検出させる必要があります。

詳細については、[ブレードサーバの認識](#)、(9 ページ) を参照してください。

## ブレードサーバの解放

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>decommission server</b> <i>chassis-num/ server-num</i>	指定されたブレードサーバを解放します。
ステップ 2	UCS-A# <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステム設定にコミットします。

次の例では、シャーシ 2 のブレードサーバ 4 を解放し、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# decommission server 2/4
UCS-A* # commit-buffer
UCS-A #
```

## ブレードサーバのロケータ LED の電源投入

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>scope server</b> <i>chassis-num/ server-num</i>	指定したシャーシでシャーシサーバモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /chassis/server # <b>enable locator-led [multi-master   multi-slave]</b>	ブレードサーバのロケータ LED の電源を投入します。Cisco UCS B460 M4 ブレードサーバの場合は、次のキーワードを追加できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>multi-master</b> : マスターノードのみに対して LED を点灯します。</li> <li>• <b>multi-slave</b> : スレーブノードのみに対して LED を点灯します。</li> </ul>

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	UCS-A /chassis/server # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステム設定にコミットします。

次に、シャーシ 2 でブレードサーバ 4 のロケータ LED 電源を投入し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope server 2/4
UCS-A /chassis/server # enable locator-led
UCS-A /chassis/server* # commit-buffer
UCS-A /chassis/server #
```

次に、シャーシ 2 でブレードサーバ 7 のロケータ LED 電源を投入し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope chassis 2/7
UCS-A /chassis/server # enable locator-led multi-master
UCS-A /chassis/server* # commit-buffer
UCS-A /chassis/server #
```

## ブレードサーバのロケータ LED の電源切断

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>scope server</b> <i>chassis-num1 server-num</i>	指定したシャーシでシャーシモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /chassis/server # <b>disable locator-led [multi-master   multi-slave]</b>	ブレードサーバのロケータ LED の電源を切断します。Cisco UCS B460 M4 ブレードサーバの場合は、次のキーワードを追加できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>multi-master</b> : マスターノードのみに対して LED を消灯します。</li> <li>• <b>multi-slave</b> : スレーブノードのみに対して LED を消灯します。</li> </ul>
ステップ 3	UCS-A /chassis/server # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステム設定にコミットします。

次に、シャーシ 2 のブレードサーバ 4 のロケータ LED の電源を切断し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope chassis 2/4
UCS-A /chassis/server # disable locator-led
```

```
UCS-A /chassis/server* # commit-buffer
UCS-A /chassis/server #
```

次に、シャーシ2のブレードサーバ7のロケータ LED の電源を切断し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope chassis 2/7
UCS-A /chassis/server # disable locator-led multi-master
UCS-A /chassis/server* # commit-buffer
UCS-A /chassis/server #
```

## ブレードサーバの CMOS のリセット

サーバのトラブルシューティング時に、CMOS のリセットが必要になる場合もあります。CMOS のリセットは、通常のサーバメンテナンスには含まれません。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>scope server chassis-num/ server-num</b>	指定したシャーシでシャーシサーバモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /chassis/server # <b>reset-cmos</b>	ブレードサーバの CMOS をリセットします。
ステップ 3	UCS-A /chassis/server # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステム設定にコミットします。

次に、シャーシ2のブレードサーバ4の CMOS をリセットし、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope server 2/4
UCS-A /chassis/server # reset-cmos
UCS-A /chassis/server* # commit-buffer
UCS-A /chassis/server #
```

## ブレードサーバの CIMC のリセット

ファームウェアでのサーバのトラブルシューティング時に、CIMC のリセットが必要になる場合もあります。CIMC のリセットは、通常のサーバメンテナンスには含まれません。CIMC のリセット後、サーバは、そのサーバで実行されているバージョンのファームウェアを使ってブートされます。

CIMC をリセットすると、CIMC がリポートするまで、Cisco UCS の電力モニタリング機能が短時間使用不能になります。通常、リセットには20秒しかかかりませんが、その間にピーク電力制限を超える可能性があります。低電力制限が設定された環境で、設定された電力制限を超えないようにするには、CIMC のリポートまたはアクティブ化を交互に実施することを検討してください。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>scope server chassis-num/ server-num</b>	指定したシャーシでシャーシサーバモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /chassis/server # <b>scope CIMC</b>	シャーシサーバ CIMC モードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /chassis/server/CIMC # <b>reset</b>	ブレードサーバの CIMC をリセットします。
ステップ 4	UCS-A /chassis/server/CIMC # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステム設定にコミットします。

次に、シャーシ 2 のブレードサーバ 4 の CIMC をリセットし、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope server 2/4
UCS-A /chassis/server # scope CIMC
UCS-A /chassis/server/cimc # reset
UCS-A /chassis/server/cimc* # commit-buffer
UCS-A /chassis/server/cimc #
```

## ブレードサーバの TPM のクリア

TPM のサポートが含まれている Cisco UCS M4 ブレードサーバおよびラックマウントサーバでのみ、TPM をクリアできます。



### 注意

TPM のクリアは危険性のある操作です。OS が起動を停止することがあります。また、データを損失する可能性もあります。

### はじめる前に

TPM が有効である必要があります。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>scope server</b> [ <i>chassis-num/server-num   dynamic-uuid</i> ]	指定したサーバのサーバモードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	UCS-A# /chassis/server # <b>scope tpm</b> <i>tpm-ID</i>	指定された TPM の組織 TPM モードを開始します。
ステップ 3	UCS-A# /chassis/server/tpm # <b>set adminaction clear-config</b>	TPM のクリアを指定します。
ステップ 4	UCS-A# /chassis/server/tpm # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステム設定にコミットします。

次に、ブレードサーバの TPM をクリアする方法の例を示します。

```
UCS-A# scope server 1/3
UCS-A# /chassis/server # scope tpm 1
UCS-A# /chassis/server/tpm # set adminaction clear-config
UCS-A# /chassis/server/tpm* # commit-buffer
```

## ブレードサーバの破損した BIOS の復旧

非常に珍しいケースですが、ブレードサーバの問題により、破損した BIOS の復旧が必要になることがあります。この手順は、通常のサーバメンテナンスには含まれません。BIOS の復旧後、ブレードサーバは、そのサーバで実行されているバージョンのファームウェアを使用してブートします。

はじめる前に



重要

サーバ上で破損している BIOS の復旧を試行する前に、そのサーバに接続またはマップされている USB ストレージをすべて取り外します。外部 USB ドライブが vMedia からサーバに取り付けられた、またはマップされている場合、BIOS の回復に失敗します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>scope server chassis-idl</b> <i>server-id</i>	指定したシャーシ内の指定したブレードサーバでシャーシサーバモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /chassis/server # <b>recover-bios</b> <i>version</i>	指定した BIOS バージョンをロードし、アクティブにします。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	UCS-A /chassis/server # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをコミットします。

次に、BIOS を復旧する例を示します。

```
UCS-A# scope server 1/7
UCS-A /chassis/server # recover-bios S5500.0044.0.3.1.010620101125
UCS-A /chassis/server* # commit-buffer
UCS-A /chassis/server #
```

## ブレードサーバからの NMI の発行

システムが応答しないままになっており、Cisco UCS Manager で、CIMC から Non Maskable Interrupt (NMI) を BIOS またはオペレーティングシステムに発行する必要がある場合は、次の手順を実行します。このアクションにより、サーバにインストールされているオペレーティングシステムに応じて、コア ダンプまたはスタック トレースが作成されます。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>scope server</b> [ <i>chassis-num/server-num   dynamic-uuid</i> ]	指定したサーバのサーバ モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /chassis/server # <b>diagnostic-interrupt</b>	
ステップ 3	UCS-A /chassis/server* # <b>commit-buffer</b>	保留中のすべてのトランザクションをコミットします。

次に、シャーシ 2 のサーバ 4 から NMI を送信し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope server 2/4
UCS-A /chassis/server # diagnostic-interrupt
UCS-A /chassis/server* # commit-buffer
UCS-A /chassis/server #
```

## ヘルス LED アラーム

ブレードヘルス LED は、各 Cisco UCS B シリーズブレードサーバの前面にあります。Cisco UCS Manager では、センサー故障が発生すると、ブレードヘルス LED が緑色からオレンジ色またはオレンジ色の点滅に変化します。

ヘルス LED アラームには次の情報が表示されます。

名前	説明
[重大度 (Severity) ] カラム	アラームの重大度。次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• [クリティカル (Critical) ] : ブレードヘルス LED がオレンジで点滅します。</li> <li>• [マイナー (Minor) ] : ブレードヘルス LED がオレンジに点灯します。</li> </ul>
[説明 (Description) ] カラム	アラームの簡単な説明。
[センサー ID (Sensor ID) ] カラム	アラームをトリガーしたセンサーの ID。
[センサー名 (Sensor Name) ] カラム	アラームをトリガーしたセンサーの名前。

## ヘルス LED ステータスの表示

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>scope server chassis-id/blade-id</b>	指定サーバのシャーシサーバモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /chassis/server # <b>show health-led expand</b>	選択したサーバのヘルス LED およびセンサー アラームを表示します。

次の例では、シャーシ 1 サーバ 1 のヘルス LED ステータスとセンサーアラームを表示する方法を示します。

```
UCS-A# scope server 1/1
UCS-A /chassis/server # show health-led
Health LED:
  Severity: Minor
  Reason:: P0V75_STBY:Voltage Threshold Crossed;TEMP_SENS_FRONT:Temperature Threshold
Crossed;
  Color: Amber
  Oper State:: On

  Sensor Alarm:
    Severity: Minor
    Sensor ID: 7
    Sensor Name: P0V75_STBY
    Alarm Desc: Voltage Threshold Crossed

    Severity: Minor
```

```
Sensor ID: 76  
Sensor Name: TEMP_SENS_FRONT  
Alarm Desc: Temperature Threshold Crossed  
  
Severity: Minor  
Sensor ID: 91  
Sensor Name: DDR3_P1_D2_TMP  
Alarm Desc: Temperature Threshold Crossed
```

```
UCS-A /chassis/server #
```

